

第40回デンソーカップチャレンジ 刈谷大会

中国・岡山 松本 隼翔

【開催期間】 2026年2月24日(火)～3月1日(日)

【開催場所】 グリーングラウンド刈谷(天然)、グリーングラウンド刈谷
(人工)、ウェーブスタジアム刈谷

【参加審判員】 北海道 大町 悠馬

東北 佐野 颯亮

北信越 岩瀧 紫生

関東 兵頭 悠太郎、糸井 太陽、松下 陸大、山本 就史、
林原 晴

東海 田邊 悠

関西 行澤 諒、木下 心

中国 近藤 琢哉、松本 隼翔、佐野生昂、小澤 陸央

九州 松本 侑翔

計16名

【JUFA INS】 青山 健太氏、赤阪 修氏、柳岡 拓磨氏、辛島 宗烈氏
大柿 拓馬氏

【JFA MG】 村上 伸次氏(1回戦・2回戦・3回戦のみ)

1日目

プラクティカル

オフサイドの見極めするためのプラクティカルをした。

競技規則テストを実施した。

テストで不合格という結果となり自分自身の勉強不足、そして大会に向けた準備不足を痛感した。

2日目

U-20 全日本選抜 対 東海選抜 (4th)

振り返り

振り返りでベンチの対応を早くすること。4thとして、主審・副審のサポートも、ただ見ているだけじゃなくて、トラブルの予兆やベンチの空気を早めにキャッチすることが大事だと気付けた。

3日目

東海選抜 対 関東選抜 A (AR1)

振り返り

今回の試合では、副審として常にディフェンダーと同一線上を保つことを意識してラインキープを行い、オフサイドの判定に備えた。攻守の切り替えが速い場面ではポジション修正を早く行い、プレーと最終ラインを同時に見ることを意識した。オフサイドの可能性のある場面では落ち着いて状況を確認し判定することができた。



4日目

北海道選抜 対 関東選抜 B (AR1)

振り返り

選手同士のチャレンジがアフターになった場面で主審の視野外だったため、副審としてフラッグアップを行いファールのサポートを行った。主審と協力しながら判定を共有することができ、審判団として連携して試合をマネジメントす

ることができた。



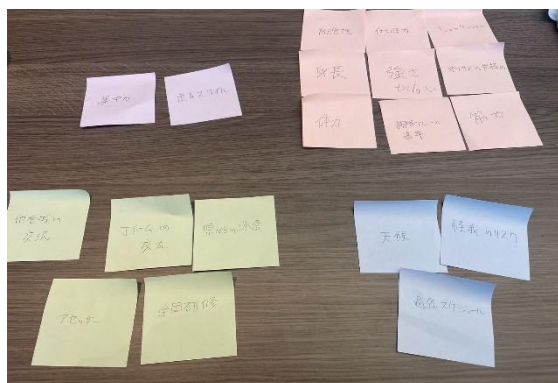
5日目（大柿氏セッション）

SWOT分析（強み、弱み、機会、脅威）の4つの面から自分のレフェリングや、私生活のことを書きだした。審判員としての目標を自己理解と行動計画した。

この研修を受けて、SWOT分析を通して、自分の審判員としての強みや弱み、機会、脅威を整理することができた。普段の活動では気づきにくい自分の特徴や改善点を客観的に見つめ直す良い機会となり、審判員としての現在の立ち位置を改めて理解することができた。また、自分の強みをどのように活かし、弱みをどのように補っていくかを考えるきっかけにもなった

サッカー教室を行った。

サッカー教室では、知的障害のある方々とデンソーカップに参加している選手たちが一緒になり、交流しながらサッカーを行った。普段は審判として試合に関わることが多いが、このサッカー教室では審判、選手、知的障害のある方々という立場の違いを感じることはほとんどなく、同じピッチの中でサッカーを楽しむことができた。そこで感じたのは、それぞれの立場や障害の有無といった壁ではなく、サッカーが好きという共通の思いで集まっている人たちの存在である。サッカーには多くの人をつなげる力があることを改めて実感する機会となった。



紫：強み 赤：弱み 緑：機会 青：脅威

6日目

関西選抜 対 プレーオフ選抜 3位決定戦 (R)

振り返り

プレーの先読みをすることの重要性を強く感じた。次にどのようなプレーが起こるのかを予測することで、より良いポジションを取ることができ、正確な判定につながると感じた。また、そのためには状況を予測する力だけでなく、プレーに素早く近づくための走力も必要であると感じた。プレーを正しく判断するためにも、先読みの力とそれを支えるフィジカルの向上が重要であると学んだ。



大会を振り返って

第40回デンソーカップチャレンジ 刈谷大会に審判員として参加できたことは、多くの方々の支えや指導があったからこそだと感じています。審判員として試合を任されることの責任の大きさも改めて実感しました。ピッチ上では一つ一つの判定が試合に影響を与えるため、その責任を自覚しながら取り組むことの重要性を学びました。ピッチ外のことでは、競技規則テストの勉強の取り組みはもう一度見直す必要があると感じました。

この経験を地域に戻って、自分のレベルアップに繋げていきたいです。

学生幹事の皆様、インストラクターの皆様、審判員の皆様、貴重な経験をありがとうございました。